



創立 1995年 10月 18日

[参加して真に生き甲斐の持てるクラブ]

2014～15年度テーマ ～先人の知恵を受け継ぎ、自分を出し切ることに徹しよう～

第 226 回例会

日 時：平成 26 年 8 月 14 日(木) 12:30～14:25

場 所：八王子エルシィ

出席者：59 名 欠席者 11 名 出席率 84.3%

(会員総数 70 名 休会 0 名)

会食とハッピーコイン披露

田中例会委員長の合図で会食を始め、会食中に土井会長より 12 名 13 件のハッピーコインが披露された。(5～6 ページに掲載)。

開 会 田中例会委員長の司会で開会

本日の配布資料の確認

1. 挨拶 土井会長

梅雨明け 10 日の晴天と言いますが、今年は 17 日位続きました。猛暑・酷暑・厳暑と色々な言葉がありますが 8 月 5 日と 6 日は 38 度近くの暑さでした。皆さん体調はいかがでしょう。くれぐれもお気を付けて下さい。

一転して台風 11 号の上陸により列島全体に大雨の被害があり、目を覆いたくなるもの凄いものでした。命を落され、家を失うなど心痛む昨今です。

さてプロバスクラブの活動について、まず地域奉仕委員会では、もうすでに生涯学習サロンの準備活動に入っており、特に開閉講式の外部講師の招聘に苦勞されているようです。多くの選択肢の中から選べるよう、是非皆さんのご協力をお願いします。

次に 20 周年記念事業ですが、2 年ぐらい前からの準備が必要な部門もあり、前年度の荒会長の代から先行して行っています。先月の総会では周年行事・事業に関わる準備委員会の設置が可決され、準備が進められています。

この 20 周年記念事業は、私達が力一杯生きていく証拠でもあり、誇りでもありますが、サロンに御参加下さっている市民の皆様への恩返しのも

あります。また、東日本大震災の被災者への支援の一助ともなります。会員の皆様の温かく、また篤いお心の結集をお願い申し上げます。その他卓話の実践、新会員の増強等につき、御協力をお願い申し上げます。

2. バースデーカード贈呈



今月も池田会員手作りのバースデーカードが、土井会長より下記 6 名の会員に贈られた。(敬称略) 写真左から土井会長、宮崎、八木、久野、竹内(欠席 大高・佐々木正)

3. 卓 話 八王子の下水道と水辺環境

磯 洋一会員



八王子市役所 OB の磯です。早速本題の「八王子の下水道と水辺環境」の話に入りたいと思います。ただ、話ではなく説明になってしまうかも知れませんが聞いていただければ幸いです。

(1)「平成 12 年当時の下水道の整備状況と河川の水質」

私が平成 12 年 4 月に下水道部長に就任した当時、八王子の下水道普及率は 70% でした。最初に下水道管の敷設工事が始まったのが昭和 30 年で、中心市

街地の下水道が使えるようになったのが北野下水処理場の一部が完成した昭和 44 年 7 月からでして、東京オリンピックが昭和 39 年ですからまだその当時八王子では公共下水道が使えなかったのです。

下水道管の敷設が始まってから 40 年、最初に公共下水道が使えるようになってから 26 年が経った平成 7 年度末の普及率が 58%、先ほども話しましたがその 4 年後の 11 年末が 70%ですから、この間の普及率は毎年平均 3%しか上がっていませんでした。と申しますのも、下水道事業は大変な金食い虫で、その当時で下水道会計だけで借入金が約 1 千億円位ありました。



しかし、八王子は多摩川・浅川の支流で 1 級河川が 16 もありますが、どの川も市民感覚では泳げない河・汚い川というイメージが浸透しておりました。まさしく東京都が行った 11 年度の水質調査の結果によると、1 級河川の水質ワースト 10 に八王子の河川が 6 河川入っていました。また 12 年度と同調査の結果はワースト 1・3・4 位が市内の河川でした。

平成 12 年の 1 月に初当選した黒須市長の政策の一つに「21 世紀は環境」の時代ということを掲げておりました。まさにその当時環境問題の一つに東京湾の富栄養化がかなり話題となっており、その上流に位置する八王子の河川が汚れていたのではどうも世間に顔向けができない状況でありました。

又、下水道はその地域の文化水準のバロメーターと言われておりますのに、当時市内 21 の大学はそのほとんどが下水道の未整備地域の市街地の周辺部に立地しておりまして、東京の大学にあこがれて入学し、地方から移り住んだ学生には田舎と同じ「汲み取り式」でがっかりさせておりました。

(2) 「河川の浄化作戦」

このような状況でしたので全庁的に、特に下水道部においては一日も早く下水道の普及率 100%を目指すべきとのプロジェクトチームを作り検討を致し

ました。第 1 がマスコミも取り上げやすく市民アピール度が高い「下水道シンポジウム」を計画、そこで黒須市長に従前の計画より 10 年早い平成 20 年度末下水道整備 100%を目標にすることを宣言してもらうことにしました。

このシンポジウムのテーマは「水辺環境の再生における下水道の役割」ということで、パネラーとして当時の日本の下水道のトップの国土交通省の下水道部長さん、東京都からは流域下水道本部長さん、学識経験者として「八王子湧水ネックレス構想」を提案して頂きました多摩美術大学の教授、市民代表は浅川流域市民フォーラムの代表者、そしてもちろん黒須市長の 5 名の方々をお願いしました。コーディネータは私が担当しました。

シンポジウムは平成 13 年 9 月 4 日（火）駅前のクリエイトホール 5 階で行いましたがパネラーが豪華なこともあり、市民はもちろんのこと国や都の職員も多く集まり大変盛況でした。

そこでは、各パネラーの方々が一日も早い下水道の整備がもたらす効果について活発に発言がありました。市民の文化水準の向上、市内河川の水辺環境の改善、そして虫が乱舞する環境の実現、八王子のイメージアップ、下流域の水質の向上、東京湾への富栄養化削減の効果、また下水道会計の健全化等についてでした。これらを受けて黒須市長が「平成 20 年度末までに下水道普及率 100%整備」を宣言し、シンポジウムは大成功でした。

第 2 の提案は平成 12 年度末の普及率が 75%になり丁度 3/4 の整備ができたわけです。残りの 25%の未整備地域は市街地の周辺地域で面積が広い割に人口が少なく投資効果が懸念されておりました。特に調整区域はより顕著で下水道本管をその地域まで敷設していくための時間と建設費がどのくらいになるかが大きな課題でした。

そこで、調整区域については結論から先に申し上げますと、各家に合併浄化槽を市役所で整備し、これを公共下水道に位置付けることにしました。普及率 75%になっている下水道整備区域が整備途中からの変更ですので大変でした。国においては、下水道は国交省、浄化槽は環境省なので省庁間の調整が、また都においては流域下水道地域なものですから下水道計画の変更、つまり流域下水処理場の規模の変

更や管渠の変更、関連周辺市町村との各施設に対する負担割合の変更等が大変で、さらに各市町村の理解を得ることや、何よりもその地域にお住まいの市民の方々の理解を得ることなどが大変でした。

この手法について全国の市町村から早期整備のノウハウや財政面などについての問い合わせが多くあったと聞いております。

これらの浄化作戦の成果は大変なもので、下水道の普及率は平成 19 年度末にほぼ 100%を達成しました。これは、市民の皆さんの理解と御協力はもちろんのことですが、国や東京都の絶大なるご支援のおかげと感謝しております。

(3) 「最近の市内河川の状況」

その結果、今では浅川にアユが遡上し、市内のあちこちで「蛍」が舞っていると聞いております。恩方、上川、川口地区、そして今年 7 月近所の方々と犬目町の小川に「蛍」が乱舞している所を見に行きました。

お手元の資料にあります様に、都内河川の BOD 値において平成 10 年度および 14 年度ではワースト 10 に市内の河川が入っていましたが、平成 20 年度にはなくなり平成 24 年度では綺麗な川ベスト 10 に 3 河川が入っております。また、次の資料ですが環境庁が平成 24 年 11 月に発表した調査において、この 10 年間の水質改善の上位 5 河川の内、八王子市域の河川が 4 河川も占めました。

どうも経過説明のようになってしまいましたが、まとめとしまして、「時としては市の職員であっても、国を動かすような新たな挑戦をすることもある」と言うことをご理解いただければ幸いです。また、環境改善をしようとする多くの市民と市の施策が一体になった成果でもあると評価されておりますので、今日話をさせていただきました。

ご清聴ありがとうございました。

4. 幹事報告 武田幹事

① 創立 20 周年記念事業準備委員会について

第 1 回「創立 20 周年記念事業準備委員会」が 7 月 24 日に開催され、その内容が理事会に報告された。後程、杉山準備委員長から報告を受ける。

② 全日本プロバス協議会第 6 回総会が 11 月 23 日(日)に横浜で開催される。

9 月の例会で参加申し込みを受ける。できるだけ多くの会員の参加をお願いしたい。総会会場は神奈川県民ホール、懇親会場は萬珍楼(横浜中華街)、会費は 1 万円。

③ エルシィの入居している「まるきビル」の耐震改修工事が予定されている。工期は 8 月 24 日から来年の 4 月 19 日までとのこと。

この工事に当たっては、プロバスクラブの例会や学習サロンの開催に支障のないよう手配をお願いしてある。

④ 新体育館の内覧会については、先月の例会でも案内があったが、今日中に申し込んで欲しい。

日時は 9 月 18 日(木) 午前 9 時 45 分(京王線「狭間駅」前ロータリーに集合。内覧は 10 時～11 時 30。報告事項は以上。

5. 委員会報告

(1) 例会委員会 田中委員長

出席会員数の報告

(2) 情報委員会 河合委員長

新体制でのプロバスだより 225 号をお手元へ配布した。今年度のご協力をお願いしたい。投稿欄を活用して会員の皆さんの思いを述べて欲しい。原稿の分量は 800 字から 1000 字ぐらいにまとめて頂き、できるだけ多くの会員の投稿を掲載したい。

(3) 会員委員会 岡本委員長

クラブの安定的な会員体制を確保するために新会員の推薦をお願いしたい。皆さんのご協力がないと増員は難しいので、お手元に配布した「新会員推薦のお願い」を参考にされ、適任者の推薦をお願いしたい。(配布文書省略)

(4) 研修委員会 石田委員長

報告事項なし

(5) 地域奉仕委員会 寺田委員長

先月の例会でお願いした学習サロンについてのアンケートを本日回収するので担当委員にお渡し願いたい。アンケートには「以前聞き漏らしたので改めて話を聞きたいテーマ」等、新しい質問項目が含まれているので、それぞれにご記入の上、是非提出をお願いしたい。

昨年度一般会員にお願いした「第 18 回学習サロンアンケート」の結果については内山前委員長に報

告をお願いする。

内山前委員長

アンケートの回答者は一割程度。

(生涯学習サロン参加について)

① サロンに参加した理由

「開講式と閉講式の特別講話」と「今まで参加して興味が持てたから」の回答が多かった。

② サロンへの参加回数

「初めての参加」もあったが、リピーターの方が多かった。

③ 今年のサロンをどこで知ったか。

「送付されたお誘い文書を見て」と「プロバスクラブ会員に誘われて」の2項目が多く、「新聞を見て」と言う方もあった。

(今年の学習サロンの内容についての評価)

① 特別講話

いずれも好評で「良い」という評価を得た。

② 第1週から第3週のテーマ

すべてのテーマで満足度は「良い」という評価。

③ 野外サロン

ほぼ全員から「良い」の評価。一名だけ「やや物足りない」の意見。

(今後の興味あるテーマ)

社会問題、芸術、科学・自然、歴史、文学、医療、経済・産業、人生観、旅行、趣味の順。その他「薬草」「織物と八王子の歴史」「食品添加物」など。

6. 八王子「宇宙の学校」プロジェクト

吉田サブリーダー

プロバス日より7月号に詳しく報告されている通り、本年度第1回のスクーリングが3会場で行われた。今回の参加申し込みの状況は444組の申し込みがあった。計画では172組で実施の予定であったが、207組まで受け入れを増やした。それでも半数以上の方が外れる結果となり、ご迷惑をおかけした。

予想以上の申し込みは、この事業の3年にわたる実績の積み重ねの結果であり、合わせて会員のご支援とご協力のお蔭でもある。

後援会の関係は澤渡幹事長をお願いする。

澤渡幹事長

吉田さんの報告にあった通り、開講式・工作・

実験など、子供たちは喜んで、楽しんでやっていた。ボランティアの学生やプロバスのメンバーなど多くの皆さんのお手伝いもいただいた。印象としては参加者が集まり過ぎて十分な配慮ができなかったことは、今後気を付けるべきだと思う。

後半の事業として、9月から11月まで3会場で子供たちに人気の熱気球やホバークラフトなどが実施される。メンバーの皆さんへのお願いとして、会場へ参加して事業の様子を見届けて欲しい。

プロバスクラブへは支援の会としての財政面のお願いをしたい。すでに7月から協賛募金のお願いをしており、9月で閉め切りしたい。前年実績としては26万円もの協賛があり、これは全収入の20%弱に当たるもので、頼りになる欠かせない財源となっている。是非ご協力をお願いする。

7. 創立20周年記念事業報告

杉山準備委員長

7月10日の総会で準備委員会の設置、方向性が承認された。これを受けて7月24日に第1回の準備委員会が開催された。記念事業の内容と推進組織の編成について、決定事項の概要を報告する。

(説明資料の掲載は省略)

① 事業の基本的趣旨は、チャリティ事業の意味合いを持たせ、入場整理券を有料とし、公共機関との共催事業としたい。

② 「八王子市民自主企画事業」として申請する。

③ 八王子「宇宙の学校」キャンペーンとして「宇宙資料展示とパネル展」をKU-MAと共催し、記念チャリティ音楽祭会場(オリンパスホール)のロビー並びにJR八王子駅南口市役所事務所ホール等で実施する。

④ 記念式典・レセプション、事業記録については今後の検討課題とする。

⑤ 推進体制については、「事業支援部門」「事業部門」「広報部門」の3部門を設け、それぞれに責任者、部門長を配置する。各部門のスタッフは事業工程に従い編成する。

8. 同好会報告

(1) ゴルフ同好会 米林会員

第4回多摩地区プロバスクラブ合同ゴルフコンペ

を10月23日(木)に相武カントリーで開催する。コンペも4回目を迎えて定着してきた。同好会メンバー以外の方も歓迎するのでふるってご参加を。

(2) カラオケ同好会 杉山会員

世話役の宮城会員が欠席なので私が代わってお知らせする。8月28日(木)に同好会の例会が開かれるのでメンバーはご参加を。

9. その他 池田会員

バースデーカードを担当している池田です。拙いものを毎月お届けしておりますが、皆様に喜んでいただけてとても励みになっています。昨年9月からカードが5枚目になりました。これを記念してハガキ5枚ずつお配りしてきました。この8月で終了することになります。

これから更に5年間、10枚目を目指して皆さんくれぐれもご自愛してください。心から願っております。そういう私も元気でないと5年間続きませんから自愛してゆきたいと思えます。これからもよろしく願いいたします。

10. プロバスソング斉唱



11. 閉会 永井副会長

本日の例会で八王子の新しいことを二つ知りました。一つはハッピーコインの岡部会員の紹介で、東京都で八王子の体育が大変に強いということ。8連覇とはすごいですね。これからも続くことを期待しています。二つ目は、卓話で八王子の河川がきれいになっていることを初めて知りました。谷地川は私の散歩道沿いなのですが、そんなにきれいとは思っていませんでした。実は大変きれいになってきているということですね。また次回、新しい知識、出会いを期待して本日は終りとします。

全日本プロバス協議会情報

全日本プロバス協議会報告(3)

全日本プロバス協議会会長代行 立川富美代

全日本プロバス協議会の目的と事業

(目的) 国内各地の全ての都市、町にプロバスが存在することを理想とし、現在既在のクラブが連携連帯することを通じて活動の社会的認知度の向上を図り、健全な高齢社会の形成に寄与することを目的とする。

(事業) この会の目的により次の事業を行う。

- 1) 会員・クラブ間の親睦を図る。
- 2) 国内外のプロバス関連の情報の収集
- 3) 会員・クラブへの情報の提供、会報の発行
- 4) 各地のロータリークラブへのプロバスクラブ設立マニュアルの提供
- 5) 地域社会への奉仕活動の奨励
- 6) その他目的を達成するために必要な事業

クラブ内の親睦を図ることは各クラブ共に進んでおり、近隣クラブ同士の交流も盛んになってきました。近畿ブロック、北九州ブロック、鹿児島ブロックなどのブロックも盛んに交流会を持っております。

関東ブロックと別に神奈川県プロバス協議会も毎年交流会を開催しております。総会と別に地域交流が盛んになることは、輪が一つ一つ広がりやがて大きな輪となり、全国のプロバスが大きな輪になると期待しております。(以下次号へ)

ハッピーコイン

◆69年前の8月15日をしみじみと思い出します。

杉山 友一

◆戦争犠牲者の方へお盆のお線香代として。

渋谷 文雄

◆暑さにも負けず、健康でいられる幸せに感謝して。

土井 俊玄

◆13年ぶりに带状疱疹再発。治ったかと思いきや今度は30数年振りの風邪ひきと散々な今夏です。事務長職を辞して少々気が緩んだかなと。活を入れるハッピーコインです。

久野 久夫

◆白内障で目玉を入れ替えたら世界が明るくなりま

ぶしいくらいです。 岡田 尚

◆今日も夏日、ビールが旨い。とてもハッピーです。

山口 三郎

◆シニアダンディーズ老人ホームで歌って来ました。私より若い方が大勢いらっしゃいました。健康ってありがたいですね。

今年も元気でバースデーカードを頂ける喜びに感謝です。 大高 秀夫

◆8月5日 82回目の誕生日を迎えました。

竹内 賢治

◆東京都市町村総合体育大会で八王子市は8年連続総合優勝(8連覇)を達成しました。ここ14年間に13回優勝しております。 岡部 洽

◆先日映画「春を背負って」観ました。映像が大変綺麗で山好きの方におすすめします。明日は「思いつきのマーニー」を観に行きます。

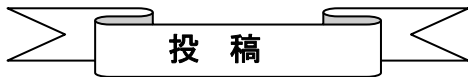
野口 浩平

◆息子一家と沖縄旅行。青い空とコバルトブルーの海。孫達にとって熱帯魚と一緒に泳げたことが最高とのこと。ばーばにとってもハッピーな5日間でした。

飯田 富美子

◆奇跡が起りました。息子の結婚！！

武田 洋一郎



東海道新幹線開業 50 周年を記念して回顧する 武田 洋一郎

今年は東海道新幹線開業 50 周年ということで、新幹線にまつわる思い出話をビジュアルにまとめてみました。

東海道新幹線の開業は、昭和 39(1964)年 10 月 1 日で、東京オリンピックが開催された年です。



一番列車「ひかり 1号」東京駅 19 番ホーム

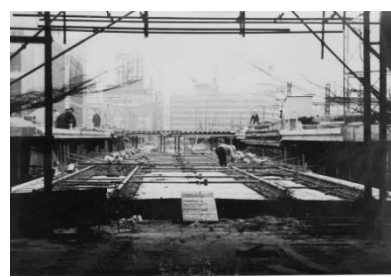
での出発式。前夜から、徹夜でこの時を待ちました。

建設工事着工から開業まで 5 年 6 か月という、鉄道



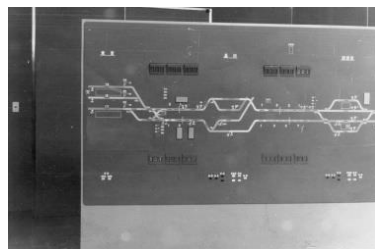
建設工事としては超短期の工期で完成しましたが、ここに行き着くまでの話は大変なものでした。この建設工事

関連の詳しい解説は色々と出版されていますので省略します。



小生は昭和 37 年 4 月から 39 年 10 月まで 2 年半、新幹線の架線に電力を給電する東京—新大阪間 21 か所の変電所を総合指令所から集中監視するシステムの開発設計チームの一員として参画しました。写真は CSC (変電所集中監視システム) の表示板と操作卓です。

当時、変電所にある架線給電用高電圧遮断器を入



り切り制御する回路は継電器 (リレー) というユニットで構成されていたのが一般的でした。これを、新た

にトランジスタ・ダイオードなどの半導体を利用することにより、高速・省電力・省スペース化を図る方式に変える設計が行われました。

システム総合設計・詳細設計は先輩社員陣が着手、



小生他、新人はメモリーとしてのフリップフロップ、アンプ、インバータ等、半導体による論理回路素子の基礎動作実験から始まり、実用回路になるまで、回路定数の最適化をもとめる実験の繰り返しの連続でした。そして、その論理回路素子で組み合わせた機能回路基板のパターン図作成を担当しました。

システムの検討から製造検査まで、国鉄鉄道技術研究所の技術陣が加わり合議を重ねメーカーとともに行動しました。

その年の6月だったと記憶していますが、システム中央制御装置が東京駅にある総合指令所に設置され、沿線各区間の21の変電所には被制御装置が配備されました。

それから実際の運用テストのため、鉄道技術研究所の技師、新幹線総局の技術者、管理職員の方々と、それぞれ同じ釜の飯を食いながら、開業に間に合わせるため、突貫で協働作業に取り組みました。まさに、官民一体での事業遂行でした。写真はそのときのメンバーの一部の方々です。

新幹線を構築する各種プロジェクトには夫々複数のメーカーが加わったことから、日本の「工業製品の規格統一」という思想が徹底したはじめてである、といわれています。例えば、車両は5社、整流器・変圧器は3社、そのほか、通信メーカーなどが共通の仕様で製造に取り組みました。



写真は鴨宮モデル線区の車庫で撮影したもので、昭和39年6月20日に鴨宮～大磯(12km)まで同僚と試乗した時の写真です。この時下りは180km/時、上りは200km/時のスピードでした。



この日のために、初めて旭光学の一眼レフカメラ Pentax-SV を新宿の「カメラのさくらや」で、当時の給料からすれば、身分不相応なものを無理して月賦で購入したものです。

手元に残っている、入社年当時の6月の給料明細書を見ますと支給額は16,800円、残業は60時間でした。当時は週休1日制で、かつ協力残業と称し毎日30分の超過勤務を行っていました。技術屋は年間総労働時間3,000時間というのは当たり前という時代でした。

それから比べると、現在は労働時間については格



段に保護されていますね。

開業直前のある日、新幹線総局の助役から京都見物に行かないか

とお誘いを受け、彼の同僚と私の3人で鴨宮基地から試作車に乗り込み、日帰りの京都見物をしました。別の車両には測定器が満載され、架線試験、パンタグラフやレールチェックその他の各種測定を行っていましたが、写真を撮ることはできませんでした。道程は片道5時間くらいだったと思います。忘れられない良い思い出になりました。

また私的な交流ですが、国鉄・新幹線総局の助役で金子さん(写真の左)という方が山好きで、私と同僚とで一泊2日の3人旅、奥鬼怒から尾瀬、燧岳と結構ハードな山行をしました。陽が沈んで到着した奥鬼怒の山小屋で、ランプの灯った薄明かりの中、酒を酌み交わし話し合ったのも、つい最近のごとく脳裏に浮かんできます。

入社早々から大きなプロジェクトに参画した経験が、以後の自分のシステム設計技術者としての基盤固めに役立ったと思います。

いま思えば、本当に良い機会を与えられたという運の良さを感じています。

以上いろいろ、とりとめもなく書きましたが、50年も前の話、記憶もいい加減ですが、東海道新幹線にまつわる回顧録としてはまあこんなものです。紙面の都合上この辺りで筆をおきます。

(本稿で使用した写真は、出発式の1枚以外は小生の所蔵写真、当時はモノクロが主流でした)

【閑話休題】

最近、「新幹線トレジャーボックス」廣済堂出版が発刊されました。これは書籍・DVD そしてお宝複製として、試乗切符・ダイヤグラム・パンフレットなどの複製品が多数入ったボックスです。東海道新幹線にご興味のある方はお申し出ください。ご覧いただけます。

お茶の会 熱海の花火とMOA美術館

高取 和郎 記

先日、お茶の会で阿部治子先生から熱海の花火大会を皆で見に来ないかとお誘いを受け、お茶の会の皆で7月26日から27日に出かけました。八王子駅発11時50分の横浜線で出発、小田原駅を經由して熱海に午後2時20分ごろ到着、改札口には阿部先生が出迎えてくださいました。

タクシーに分乗し阿部先生のリゾートマンションへ向かい、女性は先生の部屋へ、男性はゲストルームの2部屋へ分かれて落ち着きました。

さすが、熱海のリゾートマンションでプールが2つあり、明るい海の光がいっぱいです。ちょっとした温



ロビーにて

泉旅館顔負けの浴室があります。早速、温泉で一風呂浴びます。弱アルカリ、食塩泉で素晴らしい温泉です。浴温42℃で浴槽に入るとちょっと熱いと思いますが、浸かると丁度良く、気持ちの良い温泉です。夕食はマンション内のレストランで、新鮮な魚料理に、食べきれないほどの鳥のから揚げなどとビール、ワイン・焼酎と豪華な美味しい料理を満喫しました。

いよいよ、今日、熱海へ来た最大の目的の花火大会の時間がきました。8時20分から8時50分までと30分ですが、熱海の花火は四季を通して行われ、今年の夏の花火大会は7月21日と26日、8月の5・8・17・20・29日と行われます。熱海海上花火大会は歴史が古く昭和24年の台風の被害、25年の駅前からの出火により979軒が焼けた火災の復興とその

努力に報いるべきとして、昭和27年から始まり今年で63年目を迎えるそうです。

マンションの15階の屋上から見ますとマンションが高台にあることと15階の高さが加わるので、花火が開くところが目の高さになり、大きい花火は見上げる所に開きます。また、熱海の港で打ち上げていますが、打ち上げ会場の全部が見渡せるので、打ち上げの瞬間から開くまでが見ることができ素晴らしい花火の観賞会場です。

花火は途切れることなく打ち上げられ、赤、黄、緑など様々な色の菊や土星などの形をつくる型物などが夜空を彩りました。

熱海の花火は山が三方にあり、丁度、劇場の中で打ち上げているようで花火の音が山にこだまし素晴らしい音響の効果を出しています。フィナーレを飾る大空中ナイアガラは仕掛花火ではなく、会場全体から打上げるスターマインで、金色の花火が会場全体を埋め尽くし、真昼のように明るく輝きます。これは、素晴らしいの一言で圧巻のフィナーレです。感動間違いなしです。

花火が終わってからは、カラオケルームで皆、十八番を歌い大いに盛り上がりました。

翌日は、マンションのすぐ上にあるMOA美術館へ向かいました。美術館の入り口を入ると天井が明るいブルーのまるで宇宙空間へ向かうような感じのエスカレーターが迎えてくれます。メインロビーまで長さ200mの階段があり高低差が60mあるので階段の左右のエスカレーターは4段に分かれています。展示場は1から9までの展示場があります。

そして有名な黄金の茶室があります。豊臣秀吉が正親町天皇にお茶を献じるために作った黄金の茶室を再現、壁、床、ふすま、茶釜や茶道具一式が黄金でできていて組立式の構造になっています。使った黄金は60kgとのこと、場合によっては組立式のため別の場所に移動もできるそうです。続いて尾形光琳の「紅白梅図屏風」のレプリカがあります。レプリカでもやはり存在感があります。2月には本物が公開され



色絵藤花紋茶壺

るそうです。

焼物では野々村仁清の「色絵藤花紋茶壺」、「色絵金銀菱門重茶碗」など、絵画では上村松園、伊東深水の美人画、明治時代の横山大観など、錚々たる作家の色絵金銀菱門重茶碗作品が展示されています。

美術館の見学を終え、阿部先生の見送りを受けて熱海駅から小田原駅へ向かいました。小田原市内を散策する予定でしたが、あまりの暑さのため中止し、昼食後帰路につきました。

「東京タワー」と私

原風景の中の青春 飯田 富美子

今やタワーと言えば634mを誇る「東京スカイツリー」に代わっているようだが、私にとっては昨年で建設55年の歴史を誇る「東京タワー」は忘れられない思い出のタワーとなっている。私の青春時代はここから始まったといっても過言ではない。

1958年(昭和33年)4月、大学入学と同時に芝公園での下宿生活。下宿と言っても当時ここ芝公園の中には、旧国鉄の幹部職員の庭付き一戸建ての広い官舎があり、親戚がこの官舎の住人であったことから、2階6畳間と4畳半の和室がちょっと贅沢な私の下宿部屋となった。

東京のど真ん中、銀座に近く「そごう」「松坂屋」「松屋」「三愛」、そして上野では「赤札堂」が私の東京での買い物の原点でもあった。有楽町の映画館街では「ベンハー」「太陽がいっぱい」「風と共に去りぬ」「駅馬車」「ウエストサイド物語」。

さらに喫茶「ルノアール」、銀座4丁目の飲屋「現場」では友人たちと一緒に教授にご馳走になったものだ。懐かしい思い出の1ページである。

大学は芝公園内の薬科大学であり、甲府から上京間もない私にとって下宿先から5分の大学は、帰宅後にも時間があり、昼でも鬱蒼としている裏の紅葉台を散歩するのも楽しみの一つであった。散歩の途中大きな建設現場を覗いた。私のテレビ塔との最初の出会である。

その後多くの作業員が建設現場へ出入りし、立ち入りも禁止され急ピッチで組み立てが進んでいく。次第に高くなっていく塔の雄姿に驚きと感激を覚えた。何人もの鳶職が狭い鉄骨の上を荷物を担いですいすいと身軽に作業をしている。さらに高くなるに

つれ鳶職人の姿は小さくチイサク……なり、完成が近づくと豆粒ぐらいで、蟻のように動いて見える。今では考えられない工法であろう。今日は何人かしら？と数えたり。台風時にはゴゴとタワーが倒れそうな音がして怖くて眠れない夜もあった。

ついにその年1958年10月「東京タワー」と命名され、12月には333mのタワーの完成式が行われた。その後、昼休みには学友たちと増上寺の散歩やタワーに登って、四季折々東京の景観を楽しんだものだ。

後になって、タワーの設計者がタワー博士の内藤多仲氏、日建設計(株)であることを知った。内藤氏も日建設計の薬袋会長も私の母校、甲府第一高等学校(旧甲府中学校)の大先輩である。我々に夢と希望を与えてくれた功績は偉大で、私達後輩にとっては大きな誇りでもある。

今年の春、久々に小学生の孫と東京タワーに登った。展望台からの眺望は富士山も東京の街も眩しいくらいに美しく、平和な日本で生きている幸せと有難さをしみじみと噛みしめた一日であった。

縄文の土器見てある記 (1)

池田 ときえ

あいかわらずの縄文フリーク、機会あるごとに各地の遺跡、博物館を訪ねて縄文土器に親しんでいます。行く先々で魅力的な土器に出会い、その背景や成り立ちへの考古学的な関心も深まりました。

縄文時代の遺跡は東日本に多いので足を伸ばしやすく、これまでに都内をはじめ、神奈川、山梨、長野、栃木、群馬、新潟を巡っています。

ささやかな見聞ではありますが、印象に残る土器や館を随時ご紹介しますので、旅先の楽しみのひとつに加えていただければ幸いです。

まずは縄文中期の華、火焰土器の新潟から。

○ 十日町博物館 (十日町市)

考古資料で初めて国宝指定を受けた、笹山遺跡の出土品928点を収蔵しています。そのうち土器群は57点。常設展示はその一部ですが、指定第1号の火焰土器はみごとです。「不気味」「荒々しい」などの評も聞きますが、どういたしまして。デザイン、技術力ともに完成度が高く、その端正な佇まいには感動を覚えます。

在地型のほかに、各地の様々な型式の土器もあり、当時の人々の交流の広さが窺えます。

折々の企画展では「異形の土器」といった興味深いものもあり、蓋付き、台付き、取っ手付き、さてこれは？という形。形式を越えた土器の数々が展示されていました。雪深い土地の産業、織物関連の展示も充実していますから、八王子に重ねて見学するのも一興です。

○ 馬高縄文館（長岡市）

馬高遺跡出土の土器群を展示しています。ここで最初に発見された炎を連想させる土器が「火焰土器」です。これはこの土器のニックネームで、その後に出土した同型のものは正式には「火焰型土器」と呼ぶそうです。

名称はさておき、似ていながらも少しずつ違うそれぞれの土器の味わいには作り手の個性を感じます。どんな人がどんな思いで作ったのでしょうか。火焰土器にはさまざまなバリエーションがありますが、その一つ王冠土器の安定した美しさにも心惹かれます。

館内には体験教室もあり、現代の縄文土器作りに励む市民の姿が見られました。

○ 新潟県立歴史博物館（長岡市）

新潟県内の産業、自然、暮らしの歴史を展示する総合博物館ですが、「縄文時代」を独立させたコーナーがあります。

縄文学の泰斗、名誉館長小林達夫先生のご指導でしよう。縄文の四季のジオラマは一見の価値があり、オープン展示の村の秋の場面など自分も縄文人の一人になったような気分。

その規模と内容はおそらく国内トップと思われる。レプリカですが県内出土の土器を一堂に展示している壁面も迫力満点です。

また、雪国新潟を紹介するコーナーは郷愁に満ちていて、実物大の雪下ろしの様子、昔の店構えをそのまま持ってきた雁木通りなど、幼児を過ごした私には懐かしく貴重な空間です。佐渡金山、稲作作りなどのビジュアルな展示も強い印象を残します。



俳句同好会便り

河合 和郎

私の一句～8月の句会から

大暑・酷暑・極暑と夏の暑さを表現する季語は幾つもある。そんな言葉が足りないくらい厳しい暑さの八月。でも同好会のメンバーは涼やかに句づくりを楽しんでいる。

猛暑日や灼熱色の日が沈む 東山 榮

厳しい暑さを色で表現した着想がいい。夏負けしない創作意欲が素晴らし。力強い秀句。

登りてくぐる山門蟬時雨 馬場 征彦

よくまとまった句。芭蕉ゆかりの山寺の蟬時雨を彷彿とさせる。

さわさわと桑食む音や里の朝 渋谷 文雄

懐かしい音のある風景。あの独特の匂いも。若々しいリズムと姿がいい佳句。

敗戦の日ただ草薙ぎて喚きけり 山形 忠顯

八月は戦争にまつわる句が多かった。69年前のあの日の若者の苦悶を詠んだ一句。

朝採りの茄子漬けの紺瑞々し 石田 文彦

新鮮な茄子漬の旨さを色で表した。やはり秋茄子は嫁に……か。構えなくていい句。

二人居てそれぞれの午後蟬時雨 池田ときえ

中七の措辞が絶妙。間合いを心得た夫婦の穏やかな夏の午後が目に浮かぶ。秀句。

蚊遣出し煤けた豚に母想ふ 立川富美代

蚊の活躍する季節到来。使い古した豚の蚊遣を取り出し、ふと亡き母のことを思う。

道草の土産手の中てんと虫 田中 信昭

学校帰り、虫取りに夢中になっている子供たちの姿をやさしい眼差しで一句に。

雨風の止むを待ちかね虫時雨 飯田富美子

虫たちは短い季節を精一杯生きている。一時をも惜しんで鳴く虫の様子がよく描けた。

敗戦日賞味期限といふ奢り 河合 和郎

まだ食べられる食品を捨てる昨今。日本人は「もったいない」という言葉も捨てたのか。

編集後記 “心頭滅却すれば何とやら”。今年の酷暑はプロバスだよりの編集に追われ、気が付けば甲子園も大阪桐蔭の優勝で幕。広島の大豪雨災害に心痛む。はや虫の音の季節が。(河合)